

学校長あいさつ

本校は、沖縄県本島北部最初の養護学校として北部12市町村に居住する知的に障害のある児童生徒を対象に、昭和51年4月20日、小学部64名、中学部19名、職員33名で開校しました。同年7月に寄宿舎が開舎し、昭和54年に高等部、さらに翌年度には幼稚部が設置され、幼・小・中・高の一貫した教育を行う学校として整備されました。

平成16年度に現在の新校舎が完成し、平成22年度には、肢体不自由教育併置校、平成28年度からは、視覚・聴覚・知的・肢体・病弱の5障害種を対象とした総合型の特別支援学校となりました。また、平成31年度には、高等部普通科に「産業コース」が新設される等、本島北部地域における特別支援学校としての基幹を担っております。

開校から45周年を迎える令和3年5月現在、幼稚部5名、小学部45名、中学部36名、高等部75名、計161名の幼児児童生徒が在籍し、一人一人の障害の状態や発達段階に応じた教育課程の編成を行い、きめ細かな指導を行うことを全教職員で共通理解し実践しています。

本校の教育活動の合い言葉は、『なかよく げんきに ほがらかに』です。「なかよく」は、より良く人との関係が築けること、「げんきに」は、「心身ともに健康な体をつくること」、「ほがらかに」は、常に気持ちを穏やかにし情緒の安定が保てること、と捉えて、子どもたちの成長を支援しています。教職員はもちろんのこと、保護者や地域の方々ともその思いを共有し、子どもたち一人一人が社会の中で生き生きと生きていけるよう力を合わせていければ幸いです。

これまで本校の教育活動に関わっていただいた方々の思いを受け継ぎ、将来、子供たちがそれぞれにあった形で社会参加・自立を目指していけるよう、職員一同心を一つにして日々教育活動の充実に努めてまいります。

保護者、地域、関係機関の皆さまにおかれましては、今後ともご指導・ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

また、本校は、特別支援教育に係る地域のセンター校としての役割も担っております。

就学前のお子さんや児童生徒の支援・指導についての相談、学校見学等にも随時対応していますので、事前連絡の上、お気軽にご相談ください。



令和3年5月

沖縄県立名護特別支援学校

校長 徳永 盛之